

風かおる

札幌市立新陵中学校
学校だより 361号
令和8年3月13日(金)
校長 八木田 晃暢

第34回卒業証書授与式 卒業証書授与式 学校長式辞より(一部抜粋)

卒業生の皆さん、御卒業本当におめでとうございます。

また、これまでお子様に寄り添い、支えてこられました保護者の皆様に、心よりお祝い申し上げます。

卒業生のみなさんがこの新陵中学校に入学してから、3年の月日が流れました。今から3年前の入学式。皆さんは少し大きめの制服に身を包み、期待と不安が入り混じった気持ちでこの体育館、この場所にいたのではないでしょう。あの日から3年。授業や学校行事、部活動、生徒会活動など、様々な経験を通して、皆さんは立派に成長しました。

昨年10月29日に開催された合唱発表会では、「一生懸命、真剣に頑張るってカッコいい!」ということを見事に見せつけてくれました。これは、昨年卒業した3年生も皆さんに見せてくれた姿でしたが、それに負けないくらいのカッコいい姿を1、2年生の後輩たち、そして合唱発表会を参観に来ていた小学校の6年生たちにしっかりと示してくれました。その6年生たちは、来月、4月9日に本校へ入学してきます。「一生懸命、真剣に頑張るってカッコいい!」という新陵中の伝統を次の代に継承してくれた3年生のみなさんを私は心から誇りに思います。

そんな卒業生の皆さんに、ある詩を紹介します。

「木は自分で動き回ることができない 神様に与えられたその場所で精一杯枝を張り
許された高さまで一生懸命伸びようとしている そんな木を私は友達のように思っている」

この詩は、群馬県出身の詩人・画家である、星野富弘さんという方が作った詩です。星野さんは、小さいころから体を動かすことが大好きで、群馬教育大学保健体育科を卒業し、念願だった中学校の体育教師になりました。



しかし、勤め始めてからわずか2カ月後、器械体操の指導中に鉄棒で見本の演技をしている時にバランスを崩し、頭から床に落下してしまいました。救急車で病院に搬送され検査をした結果、頸椎を損傷しており、手足が全く動かない麻痺状態になってしまいました。何度も大きな手術が繰り返されましたが、星野さんの首から下は二度と動くようにはなりません。24歳という若さで、体育教師としての希望が絶たれ、首から下が全く体を動かせなくなり、寝たきりの状態になってしまったのです。星野さんは生きることに絶望しました。

その後、周りの人たちの支えに何度も励まされながら、星野さんは徐々に生きる気力を取り戻していきました。そして、今の自分ができる精一杯のこととして、少しでも苦しんでいる人たちに勇気と希望を与えられたらと、なんと口に筆をくわえ、花の水彩画と詩を書くという活動に挑戦し始めたのです。

先ほど紹介した詩は、この星野さんが花の咲いた木の水彩画に添えて書いた詩です。

「木は自分で動き回ることができない 神様に与えられたその場所で精一杯枝を張り 許された高さまで一生懸命伸びようとしている そんな木を私は友達のように思っている」

星野さんは、その後も詩と水彩画を書き続け、数々の本や絵はがきを出版し、苦しんでいる人たちのために、自分の命を精一杯まっとうしました。そして、2年前の2024年4月、78歳で幸せな人生を終えました。

「今日も一つ悲しいことがあった 今日もまた一つ嬉しいことがあった 笑ったり 泣いたり 望んだり あきらめたり 憎んだり 愛したり・・・そして これらの一つ一つを柔らかく包んでくれた数えきれないほど沢山の 平凡な優しさがあった」

皆さんのこれからの人生でも、苦しいことや辛いことに出会うことがあるでしょう。でも、皆さんのそばには、当たり前のように皆さんを支えてくれる人がいます。その当たり前に感じられる愛に感謝し、辛いことを乗り越えていってください。卒業生の皆さんが、精一杯自分の枝を張り、素敵な花を咲かせることを願い、第34回卒業証書授与式の式辞といたします。

卒業生の皆さん、御卒業本当におめでとうございます。

卒業証書授与式 答辞

卒業生代表 河原 蒼那

温かな春の日差しが手稻山の雪を溶かし、冬の名残の中に、かすかな春の気配が漂う季節となりました。

花の便りを心待ちにしている今日この日、私たちは、新陵中学校を卒業します。

今、それぞれが新しい道へと歩み出そうとしている私たちの心の中には、新陵中学校での数々の思い出が浮かんできます。この学校で過ごした何気ない毎日は、決して忘れることのできない、かけがえのない大切な思い出です。

中学校は、毎日が新しいことで溢れていました。新しい環境に戸惑う私たちに、先生や先輩方は、いつも優しく手を差し伸べてくださいました。私たちは、そんな隣で見守ってくださった方々のおかげで成長していくことができました。

私は三年間、陸上競技部に所属していました。陸上部で教わったことは、速く走るコツや陸上部の楽しさなどよりも、もっと大きいものだと思います。入部して真っ先に顧問の先生に言われたことは「応援される人間になれ」ということでした。正直、どういう意味なのかはよく分からず、所詮部活のスローガン程度にしか思っていませんでした。しかし、ある大会で私はいい記録を残せず、友達には強がっていましたが、本当は泣きたい程悔しくて、自分の不甲斐なさに腹を立てていました。

そんな時、一人の先輩が私の背中を叩き、「お前なら絶対もっといい記録を出せるようになるからがんばれ」と言ってくれました。その時の気持ちは、今でも鮮明に覚えています。「ああ、こういう人が『応援される人間』なんだ」と、ようやく先生方が言っていた言葉の意味を理解しました。先輩があの時私にしてくれたことを、私は後輩にしてあげることができたでしょうか。先輩のあの優しさが陸上部の伝統となり、受け継がれていったなら、とてもうれしく思います。

そして私は、生徒会にも所属していました。生徒会での活動を語る上で忘れてはならないのは、やはり活動目標の「ガッツだぜ!!」だと思っています。行事のたびにこの目標を言い続け、「ガッツだぜ!!」という言葉が合い言葉的なものになりはじめ、生徒全員の気持ちが一体になったように感じる場面がいくつもありました。それが本当にうれしく、ありがたくもありました。私たちを最後まで温かく見守ってくれた生徒の皆さん、先生方には感謝しかありません。

私たちは今、人生の旅路の分岐点にいます。それぞれの道を歩み出すということは、勇気を出して道を歩み続ける程、友とは遠ざかっていきます。苦楽を共にした仲間との別れはとても名残惜しいものです。ですが、私たちは、自分自身で決断した道を進んで行かなければなりません。不安もありますが、その道を選んだ自分を信じて前進して行きましょう。

在校生の皆さん、今まで本当にありがとうございました。これからこの新陵中学校を創っていくのは皆さんです。私の好きな言葉に「みんなならできる」というのがあります。これは、ある先生が私たちに度々言ってくださる言葉です。単純な言葉に聞こえますが、この「みんな」がどれほど努力していて、どのくらいすごい人達なのかを知らない、言うことはできない言葉だと思っています。だからこそ、この言葉を在校生の皆さんに伝えたいです。

これから大変なこともあるでしょう。でも大丈夫です。皆さんならできます。学年に関係なく力を合わせて、この学校をさらに良いものにしていって下さい。

そして、教職員の皆様を始め、御来賓の皆様、今まで私たちを支え続けてくださり、ありがとうございました。新たな道へと進んでいく私たちをこれからも温かく見守ってくださるようお願いいたします。

最後になりましたが、卒業生を代表して心からの感謝を伝えると共に、新陵中学校が今後も輝かしい歴史を刻んでいくことを願い、お別れの言葉とさせていただきます。